



## ◆病院長就任のご挨拶 病院長 笠間 毅

平成29年4月1日より昭和大学江東豊洲病院長を拝命いたしました笠間 毅です。

江東豊洲病院は平成26年3月に新規開院してから3年が経ちました。新井病院長のもと、全職員の皆様のご協力と努力により新病院は安全な離陸から安定飛行までできたのではないかと思います。その甲斐があり江東区はもとより東京都東部地域の中核病院として確固たる評価をいただけるようになりました。また当院では大学の付属病院としては初めての試みとなる土日・祝日の週日化が開始されました。当初は地域の患者さんや医療機関などにおける認知も少なく紹介患者さんも多くはない状況でありましたが、診察、検査や手術件数なども年々増加しており、患者さんの利便性にも寄与できるようになりました。ただ病院の診療日が増えるために職員がいかに効率よく適正勤務時間（4週8休）となるような勤務体制を組みさらに維持できるかが今後にわたる課題です。病院の基本理念にもなっています“安全・安心の医療”を担保し常に初心に立ち返りながら患者さんのための医療を担っていけるよう病院といたしましても十分なバックアップ体制を整えていきたいと考えております。



病院・職員が一丸となりチーム医療を実践していくことで昭和大学の建学の精神である“至誠一貫”を地域医療に還元できるものと思います。今後とも病院全職員の皆さまの一層のご協力、ご支援をお願いいたしまして就任のご挨拶とさせていただきます。今後とも何卒よろしく願いいたします。



昭和大学江東豊洲病院

### 第36号のトピックス

- 病院長就任挨拶
- ジェネリック医薬品
- こどもセンター ひな祭り
- 東京国際内視鏡

ライブ 2017

## ◆もっと知ろう！「ジェネリック医薬品」薬局 田中 克巳

「ジェネリック医薬品」とインターネットで検索すると約1,590,000件、「ジェネリック」では何と約10,500,000件もヒットします（平成29年3月時点）。今回、その「ジェネリック医薬品」について解説したいと思います。

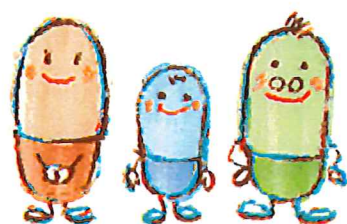
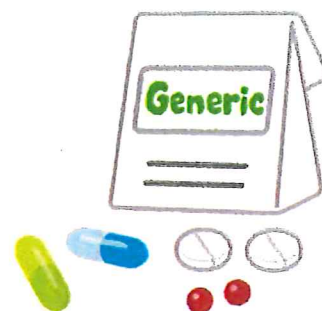


医薬品には、①一般用医薬品（一般の薬局・薬店で販売）と、②医療用医薬品（医師の処方が必要）があり、②は、新しく開発・販売される「先発医薬品」と、先発医薬品の特許が切れた後に先発医薬品と同じ有効成分を同量含み、他の製薬企業により製造・販売される「後発医薬品」があります。後者を「ジェネリック医薬品」とも言います。欧米では、薬を一般名（generic name）で処方していることに由来し、「ジェネリック医薬品（generics）」として世界共通の名前になったと言われています。



ジェネリック医薬品（以下GE）は欧米では広く普及し、数量シェアがアメリカでは90%以上、ヨーロッパでは60～80%ですが、日本における数量シェアは、約56%とされています（平成27年9月）。先発医薬品の研究・開発には、約9年～15年の長い歳月を費やし、約300億円以上と莫大な投資費用が、薬の価格に反映されていると言われています。これに比べGEは、有効性や安全性について先発医薬品で既に確認されていることから開発期間やコストを大幅に抑えられ、結果として薬の価格も先発医薬品と比べ4割～5割程度安くすることができます。GEの使用で、薬代の大幅な削減につながり、医療保険の支払い額も抑えることで、保険料や税金の負担減にもなり、医療資源の効率的活用を図ることになります。厚生労働省は平成32年度末までのなるべく早い時期にシェア率80%以上とすることを目標に、GEの普及を都道府県や製薬企業、保険者などと共に進めています。因みに当院における数量シェア率は91.6%（入院診療データ 平成28年10月～平成28年12月累計平均値より）ととても高く、GE使用を強力に推進しています。一方、GEは「安くて本当に効き目はあるのか」「安全性は大丈夫なのか」と心配する声が根強いのも事実です。GEの開発にあたっては、製薬企業において様々な試験が行われており、先発医薬品と効き目や安全性が同等であることが証明されたものが、厚生労働大臣によって承認され、厚労省は「先発医薬品と同等の有効性や安全性を有すると判断でき、これは最新の科学的知見に基づく世界標準の考え方」としています。

さて、近年「オーソライズドジェネリック（Authorized Generic = AG）」が注目を浴びています。AGとは先発医薬品と全く同じ成分（原薬や添加物、製造方法まで同じ）のGEのことで、先発医薬品企業がジェネリック企業に独占販売許を与え、他のジェネリック医薬品に先駆けて発売が可能で、開発に必要な生物学的同等性の試験等を省略できる、といった特徴があります。またバイオ医薬品（組み換えDNA技術、細胞大量培養法等バイオテクノロジーで製造）のジェネリックに相当する「バイオシミラー（バイオ後続品）」と呼ばれる薬



©日本ジェネリック医薬品学会

（例えば、ヒト成長ホルモン、G-CSF製剤）も注目されています。バイオ医薬品は高分子構造を有し複雑であるため、バイオシミラーは先発バイオ医薬品との同一性を示すことが困難で、開発には新薬とほぼ同様（同等性／同質性）の試験を行う必要があり、製造販売後に安全性に関する調査を行う必要もあります。バイオ医薬品は、一般に高価なのでバイオシミラーによる金銭的メリットを感じやすいと言われています。

以上、GEについて概説しました。私たちはGEを正しく理解したうえで選択・使用したいものです。GEについてさらに調べたい方には、「日本ジェネリック医薬品学会」や「日本ジェネリック製薬協会」などGE情報満載のサイト（<http://www.ge-academy.org/> <http://www.jga.gr.jp/>）をお奨めします。

### 3月3日に、こどもセンターのプレイルームでひな祭り会を行いました。

ひな祭り由来の紙芝居を見た後、お雛様の製作をして遊びました。

「お雛様の隣に飾る花は？」という保育士の問いかけに対して、子どもたちから「桜」や、「梅」といった春らしい花があがり、最後に「桃」と当ててくれました。そして、雛壇に見立てた大きな赤いポリ袋の上に、子どもたちが色とりどりに桃の花を自由に貼っていき、素敵なお雛様が完成しました。

女の子の健やかな成長を願って、みんなで作ったお雛様をプレイルームに飾りました。



## ◆ 東京国際内視鏡ライブ 2017



今年も、当院で国際内視鏡ライブ(TOKYO Live 2017)を開催いたします。日時は4月29日(土)、30日(日)の2日間です。昨年は、院内の皆様のご協力をもちまして、第一回目のTOKYO Live 2016を成功裡に終わることができました。江東豊洲病院でも海外に発信できるライブデモンストレーションができることが証明されました。日本はもともと内視鏡分野において、世界をリードしてきましたが、世界に発信できるライブはありませんでした。やはり言語と医師免許の問題が原因であったと思われます。そこで東京ライブでは、海外から招聘したファカルティーの外国医師臨床教授許可証を厚生労働省より取得した上で、すべてのデモを英語で進行することとしました。これは日本で



はじめての内視鏡ライブ形式で、その結果、第一回目にもかかわらず、海外からの30名を含む約200名の参加者を迎えることができました。今回も海外から最も有名なファカルティーが6名参加し、ライブデモを行います。すでに海外からの事前登録も、昨年を上回るペースで申し込みがあり、数多くの参加者が予想されています。また、今年はゴールデンウィーク直前の、病床に比較的余裕のある時期に開催することにしました。院内各部署のみなさまに、ご迷惑にならないように、そして、世界に自信を持って発信できるライブデモンストレーションを行います。今年もよろしくお願いいたします。



## 編集後記 大野 裕亮

最近、暖かく感じる日も増えてきました。私が従事する放射線治療では、乳腺や前立腺そしてその他でも徐々に件数を増やし、強度変調放射線治療や定位照射も始めて、いろいろな面で暖かみを感じています。また、ちょうど1年前に入職した新人も、少しばかり不安がとれて、こころに暖かみがでてきたのかなと感じています。寒いと行動が億劫になりますね。皆様の周りで、もしまだ寒く感じている人がいたら、その心に暖かい風を吹かせてあげてください。



昭和大学江東豊洲病院 <http://www.showa-u.ac.jp/SHKT/>  
〒135-8577 東京都江東区豊洲5-1-38  
TEL03-6204-6000 (代表)  
発行責任者：新井一成 編集責任者：長谷川真

